

令和3年度カモシカ管理検討委員会議事録

令和3年7月21日（水） 15時15分～17時

事務局	「1 開会」 「2 あいさつ」 「3 委員紹介」
青井委員長	カモシカの検討委員会は久々です。しかし第4次が終わり第5次計画を策定しなければならないので本日は皆さまにお集まりをいただきました。活発なご審議をよろしくお願いいたします。それではまず議題1の「令和2年度カモシカ管理対策の実施状況について」事務局から説明をお願いします。
事務局	「令和2年度カモシカ管理対策の実施状況について（案）」 資料1により説明。
青井委員長	それではただ今のご説明に関しまして質問ご意見等あればよろしくお願いいたします。 3ページのカモシカの生息状況の下の説明が「子連れでいる」、「単独で出没」、「いない」と書いてありますが、図表にはそういう項目がないのですが、どこを見れば分かるのでしょうか。
事務局	こちらはアンケート調査の概要版の資料とさせて頂いております。これの他に全データを集計した全体版もありますが、今回の資料に付けていませんでした。
事務局	御指摘の点は単純な資料の誤りかと思えます。確かに出没傾向として「子連れでいる」、「単独で出没」、「いない」という3項目で聞き取りはしております。更にそれが「減った」「増えた」「変わらない」というところも項目として聞き取りはしております。 グラフと文章が食い違っているので、後ほど訂正版をメール等でお送りさせて頂きますのでご了承いただきたいと思えます。
藤澤委員	私は山を歩いていてやはりカモシカが少ないような感じは受けました。今年は雪が多かったので山奥では道路で多く見たと言う方もいましたが、全般的に以前よりは見かけないという感じは持っております。
辻本委員	密度として4の（1）ですが調査した結果、減少しています。アンケート調査の方でも見ましたが「変わらない」が多い。環境省のものも前回調査のみという部分もありますが、概ね変わらない。私も減っているという話を聞くものですから、それがどういう違いがあるのかというのが気にはなっていて、何かそれに関するような調査の結果ですとか意図があれば教えて頂きたい。
事務局	今年の春に鳥獣保護区の関係で各市町村を回らせて頂いて意見等聞いた時、鳥獣保護巡視員からは普段は見られない3頭連れのカモシカがいたという話も聞いています。カモシカは縄張り意識の強い動物ですので、1つの場所からそれほど動く事は無く、農業集落のアンケート調査を踏まえて、それ程大きく減っているという状況ではないと捉えているところです。今後調査方法も含めて必要であれば検討して参ります。
辻本委員	ありがとうございます。やはり調査する場所というか生息場所によっての違いがあると考えています。集落の近くで、盛岡でさえいるわけですけども、山林のほうに餌はどうなのか、シカの影響があると思えますが、そういったとこ

	ろはこの調査では見えていない部分かと思います。クマのような調査を大々的にやるという訳にいかないと思いますが、この管理計画の中で推移ですとか調査の考え方があった方がいいと思います。
青井委員長	山岳地帯に岩手県の場合カモシカ保護区が3カ所ありますので、そこには毎年文化庁の予算でかなり精密な調査をしています。そちらの方も減っているように私は感じていますが、教育委員会で何か保護区の動向等ご存じでしょうか。
岩淵委員	カモシカ保護地域は、現在3カ所設定されているのですが、それぞれの保護区について8年に1回2年間の調査を行っております。令和元年度まで北奥羽山系の調査を2年間行い、昨年度と今年度の2年間で南奥羽山系の調査を実施する予定で、調査の結果でも減っている傾向に捉えているところです。当該調査以外は通常調査を実施していますが、増えている傾向は見られない状況にあります。
割船委員	盛岡市も、市民からの通報等による対応の件数を見ますと、ここ数年大きく減ってはいないし若干増えているような傾向も見られなくはないですが、恐らく頭数自体は増えてはいない状況。ただ最近、ニホンジカが増えてきた関係で、カモシカの生活圏が若干街中の方に近づいてきた、そういったケースがあり得るのかと推測しております。今年度も例年並みの推移を経ておりますので、ここ数年は減った、横ばい状態だということをございます。
青井委員長	次の議題「次第5次カモシカ管理計画策定に向けた検討について」、これにつきましてご説明をお願いします。
事務局	「第5次カモシカ管理計画策定に向けた検討について（協議）」 資料2・3により、現行計画の概要及び修正点等を説明。
青井委員長	第5次に向けて、「錯誤捕獲の防止対策」と「市街地出没へ対応」を付け加えたいということで、それに対する意見はないかという事なのですが、基本的にどういう事を記載しようというお考えなのか聞かせてください。
事務局	錯誤捕獲については、わなの関係になってくると思います。設置の方法ですとか。市街地出没への対応については、カモシカが市街地に現れた時に各部署でどのように対応するのが良いのか検討の上で、マニュアルやフロー的なものを作成出来たらと思っておりました。
青井委員長	基本的な方向性だそうですが、ご意見、ご質問等あればお願いいたします。
藤澤委員	私の身近な体験を話しますと、カモシカがリンゴ園を荒らして困った事があり「わなを掛けてはどうか」とは言えず、とにかく追払いをお願いします。そうすると、また何年か後、前のカモシカがいなくなったら別のカモシカが来た。縄張り意識が強くて必ず出てくるという事で、非常に困った事があったのですが、幸か不幸かシカが増え過ぎて、電気柵を設置するようになりました。シカのおかげでカモシカ被害対策にも効果が出ております。被害があまり出てこないのは、電気柵がかなり整備されたという事も1つの要因かと思います。 それから、わなを掛けてシカを捕獲しようとするカモシカがわなに掛かる事がある。これも指導していますが、放獣の仕方も慣れてきてまして、2人いれば簡単に出来るまでに、放獣のテクニックもかなり進んでまいりました。
青井委員長	放獣のテクニックが皆さんに広まっているのであれば、事務局に教えてあげて、この計画の中に入れてあってもいいのではないかと思います。事務局としてはいかがですか。

事務局	是非、後ほど詳しく教えていただけたらと思います。
青井委員	シカ対策の電気柵が広がっていますので、それによってカモシカも防げているというのは全くその通りだと思います。電気柵はまだ延びる状況ですので、そういう意味でもカモシカ被害防止にも今後有効かなと。恐らく忌避剤よりは電気柵のほうがずっと効果があると思います。 もう1つの「市街地出没への対応」というのがありますが、これについては何かご意見ありますでしょうか。
辻本委員	これまでも、各市町村で行われている部分があると思います。クマとは違っていますが、危険性が無いとは言えません。歴史文化課でプロフェッショナルの職員がいて、私が行かなくても放獣出来る実態もあります。今回、県として市街地対応を定めるのは、麻酔薬を使うという部分を想定してという事で理解してよろしいですか。他にも目的があれば教えてください。
事務局	先日、麻酔の使用について市町村から相談がありまして、そうした時にどういう対応が出来るか考える必要があります。ただ、麻酔を使わないで放獣出来るノウハウがあればそちらも情報提供していければと思っています。
辻本委員	両方考えておかなければならないとは思いますが。どういう形でマニュアル化するかは別として、市町村の業務として対応する部分があります。盛岡市では、市の文化課として対応できない時に動物公園に要請があつて我々が行って麻酔をするという対応をしていますので、そういう対応を全県で対応出来るようになれば、色々な意味で住民の方々の危険が低くなると思います。 もう1つ、錯誤捕獲の事で「防止対策」という書き方になっていますが、これはどういうものを想定して出しているのか確認です。クマと同じようにカモシカが掛からないようにする事に目的があるのか、掛かってしまったカモシカをどうするかが目的なのか、その両方なのかで議論が変わるような気がしますがこの点はいかがでしょうか。
事務局	今回追加させて頂きました、「錯誤捕獲の防止対策」と「市街地出没への対応」につきまして、項目をいれた背景として、国で示しました基本指針で新たに「錯誤捕獲の防止対策」と「市街地出没への対応」が強化する項目として加えられまして、今回、次期計画において検討するべきであろうと考え入れさせて頂きました。「錯誤捕獲の防止対策」というよりは発生した場合の対応も含めて、対応を検討するという趣旨でご理解いただきたいと思います。
青井委員長	実際にカモシカの錯誤は岩手県でどれくらい起きているのか把握されているのでしょうか。
事務局	自然保護課では把握しておりません。実際お話としては伺っているのですが、件数の報告というのも求めておりません。
青井委員長	それは、調べておいた方が良いでしょう。
事務局	情報収集の段階からだと思っています。
菅野委員	カモシカの錯誤捕獲は無いわけではない。狩猟者が簡単に外して逃がしていますので、件数は分かりません。ほとんどがくくりわなですから、くくりわなの掛かったところに長いフックを掛けてやれば自然に外れますので、件数は捉えにくいかなと思います。
青井委員長	やはり対策をするのであれば実態を抑えておかないと、対策の効果が発揮されたか分からないので、情報収集をしたほうが良いと思います。

藤澤委員	この前のイノシシ管理検討委員会で、くくりわなよりもはこわなを薦める委員がいて、「はこわなは中々入らないですよ」と言ったら、それは下手だからと言われました。イノシシもシカも大きな囲いわなでやることもあるのですが、一番手っ取り早くて簡単に仕掛けられるのは、くくりわなです。その中に数は少ないですけど、掛かってはならないカモシカが掛かる事はあります。今、皆慣れてきまして放獣の仕方も上手になってきています。
青井委員	くくりわなが圧倒的に増えているとう事ですよ。当然、シカもカモシカも似たような生態をもっていますから、カモシカの錯誤捕獲も増える事は間違いないと思いますので、次期の計画に錯誤の事について、放獣はわりと簡単に出来るという事を含めて、カモシカを捕った人が責任持って放獣する体制を作る、というところまで織り込んでおいた方がいいのではないかと思います。特別天然記念物ですから、扱いは大変ですよ。
藤澤委員	今、シカは2万5千頭も獲らなければというふうな流れになってきており、シカの捕獲は、くくりわなが一番です。ただ、カモシカも掛かる率もあると思いますので、ある程度以上まで締まらないためのストッパーが付いたわなを、色々な講習会あるいは猟期の事前講習等利用して、PRをしていった方が良いと思います。
青井委員	カモシカ管理計画でも錯誤を防止するという事が重要要件であれば、ストッパーの正しい使用も織り込んでいくことは必要だと思います。
事務局	資料の3の5ページのところ、滅失件数が令和2年度356件となっておりますが、過去の過去最多となっている状況なのですが、こちらの内訳、背景が分かるのであれば教えて頂きたい。
岩淵委員	死亡した原因で一番多いのは「不明」ですが、分かっている中で一番多いのは病死、次が崖等から転落する場合、鉄道や車での事故が同じくらいと捉えていました。
事務局	ありがとうございます。個体数の密度が減少している事の現状の評価をお聞かせ頂きたいと思います。密度が右肩下がりという状況において、天然記念物というのもあり、現状のまま個体群維持が出来るのかそうではないのか、何らかの対策が必要なレベルにあるのかというところを聞かせてください。 次に、モニタリング方法について、現時点で自然保護課においては追い出し調査を概ね5年毎に実施しているところですが、次の計画を検討する段階において、5年後同じような方法で調査をしていいものかを御知見お聞かせ頂きたいと思います。
青井委員長	事務局からの要望です。何かご意見ありますでしょうか。
辻本委員	密度が減少していると先ほど各委員から懸念が出ましたが、中々分からないというところが正直なところだと思う。ハンターの方々はじめ、実際山に行つて或いは山で生活している方々が同じ事を言っていますので、そういう人の声というのは当たっていると思う。更なる調査を行つてそれがデータで示せるようになればいいのですが、難しい見通しだろうというのが共通した認識になると思います。ただし、おっしゃる通り管理計画は、冒頭でお話があった通り、言い方は悪いですが、有害捕獲をする為にする計画という捉え方がありました。それは必要な事ですが、その中でカモシカの生息実態、被害実態を把握しながら有害捕獲していくというのが大前提ですから、被害が減ってきているとか、

	<p>許容範囲になってきているという状況になってくれば、実態を把握していく方に重きが置かれてもいいのではと思います。</p> <p>モニタリングは設定した計画に対して行って、その結果を見て、計画にフィードバックするのが大前提です。今の状況で何か新たなモニタリングが必要かどうかというのは、この計画を作る時にもっと広く意見を求めて、実際に計画には盛り込めないけども、今後の生息実態を把握するためには、こういった事が必要になるという事をメモしておくのは大事だと思います。</p>
事務局	<p>モニタリング方法につきましては、同じ場所を同じ方法で見っていくのを頑なにやっていたというところがあります。例えば、倍の地点を調べる事によってより精密に分かるのではないかと考えておきまして、調査地点数の評価を頂ければと思います。計画の中にモニタリングをどうしていくかという事についても、ご意見伺わせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
藤原 総括	<p>農業被害が依然としてあるというところで、農業被害の評価について教えて頂ければ。</p>
村上 委員	<p>農業被害はここ数年 1000 万円前後で推移していますが、減ってはいます。内訳を見ると果樹と野菜がほとんどです。水稻はあつたり無かつたりします。果樹のリンゴ等は、放置していたリンゴを食べにきて、枝に生っている物を食べる。野菜もあれば食べていく、蹴散らしていくというのがあると思う。その辺は評価というところまでは無いです。</p>
青井 委員長	<p>被害は依然としてあるという事は間違いないですが、一方ではかなり密度が下がってきているという実態があるので、有害駆除申請が出てくる可能性はそんなに高くないと思う。そうすると、有害捕獲の申請に備えて管理計画を作っているという大義名分がいずれ破綻してくる気がします。そうすると第一種特定計画も考えないといけない、保護の観点に重きを置いた計画も今後必要になってくるのではと思います。そういう意味でも、モニタリングをきちんと継続していくとう事は凄く大事だと思います。</p> <p>今の県でやっている方法で評価するのは、同じ場所で同じ手法でやっているという事だと思います。今後調査地点を増やすのはもちろん良いですが、少なくとも現在モニタリングしている地点と手法はあまり変えずに動態を探るのが大事だと思います。</p> <p>カモシカ保護区では全国的に毎年かなり詳細な調査を全く同じ方法でやっています、かなり素晴らしい結果がでてきています。どこも相当減っているという結果が出ています。報告書があるので是非参考にされたらいいと思います。同じ手法で続ける事によって初めて分かってくる事が大きいので、カモシカ管理計画の次の改定に向けてモニタリングはもっと充実させて、ここまで来ているから第一種計画に切り替えなきゃいけないという提言が出来るかもしれないので、ご検討いただけたらと思います。</p>
青井 委員長	<p>計画案の 5 ページ 6 ページ図を削除してグラフにしていますが、岩泉だけいつも減失数が無いことが気になっていました。あれだけ広い山を持っている町で一頭も死んでいないのは考えにくいので、恐らくきちんと調べていないだろうと思います。図をグラフにしまうと分からなくなってしまいます。可能であれば、何でゼロなのかの問い合わせを一度された方がいいと思います。</p>

	それが前々から気になっていて、図が無くなるこの機会にお話をさせて頂きました。
青 井 委 員 長	それでは、色々意見も出されましたので、そういった意見を参考にされてより良い案を作って頂けたらと思います。 その他、何かありますか。
事 務 局	委員の皆様からなければ、事務局から一点ございます。 資料4について説明。
青 井 委 員 長	これをもちまして議事を終わりたいと思います。円滑な進行にご協力ありがとうございます。それでは事務局にお返しします。
事 務 局	4 「閉会」